



# 自治体スポーツイベントの 準備内容と参加率との関連

— 1年間に何を準備すれば参加率が向上するのか —

重松良祐 (三重大学教育学部)

岡田真平 (公益財団法人身体教育医学研究所)

背景：身体活動や運動によって多くの効果が得られる

# 身体活動 = 生活活動 + 運動

高血圧  
心臓病  
脳梗塞

がん  
うつ  
転倒

エネルギーバランス  
体重

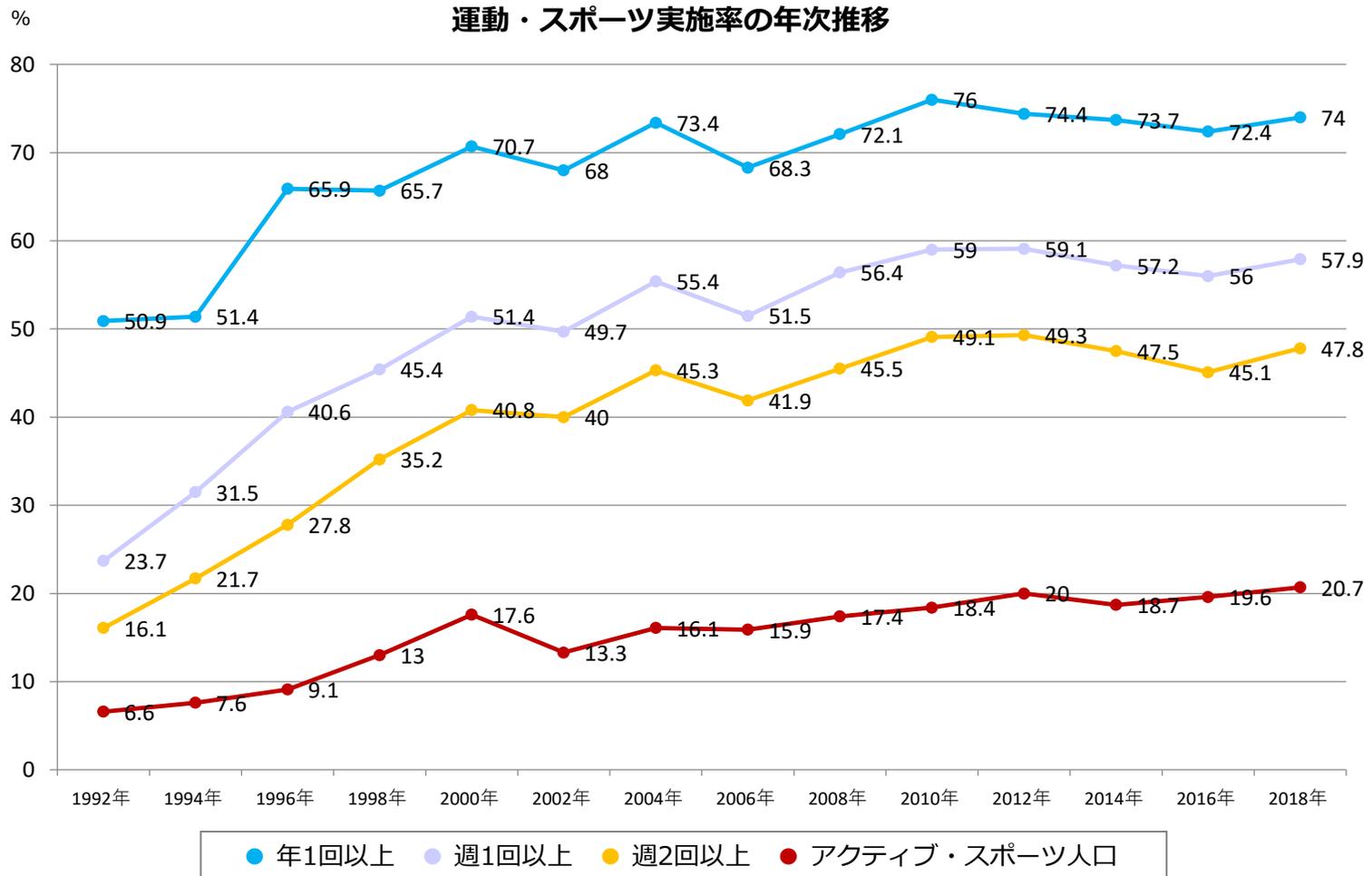
筋力  
心肺持久力  
骨  
からだの機能

減らす

保つ

増やす

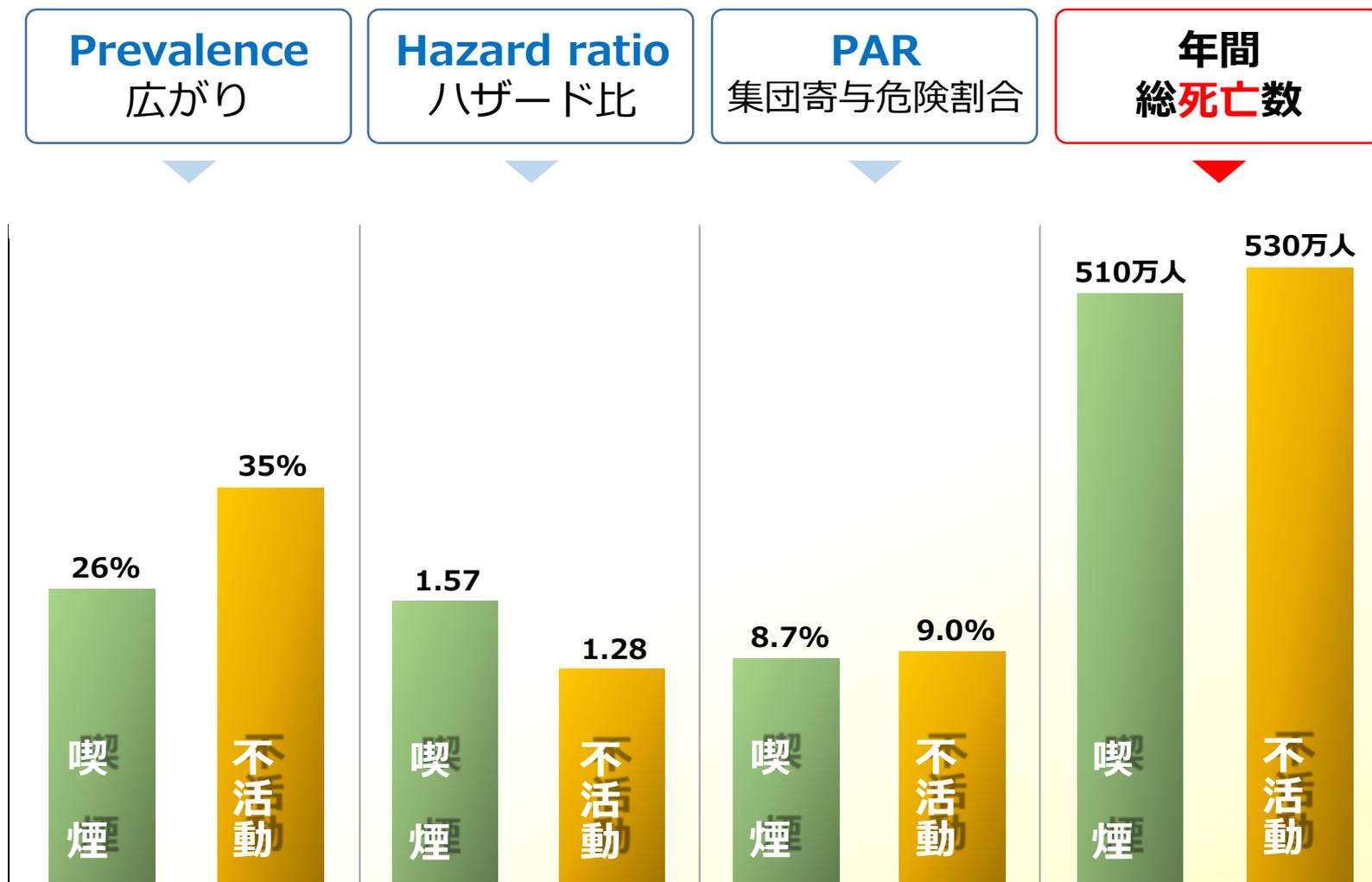
# 運動していないという現実



## アクティブスポーツ人口

① 週2回以上、② 実施時間1回30分以上、③ 運動強度「ややきつい以上」、  
という3条件をクリアする高頻度・高強度実施者のこと

# 問題：不活動であることは、喫煙と同等のインパクトがある



Wen & Wu (2012), PMID: 22818933

# 住民が参加するスポーツイベントは習慣化への契機となりうる



- 市民マラソン大会
- 地区運動会
- 全国スポーツイベント
- 体力づくり強化月間（毎年10月）

- ポスター掲示
- ウェブ掲載



**問題：イベントに向けて何をどう準備したら良いかは不明**



**イベント主催者にとって有用な情報になりうる**

# 研究の目的



**1日でおこなわれるスポーツイベントに着目し、開催までの準備内容を把握するとともに、イベント参加率との関連性を検討し、参加率を高める要因を探索すること**

# 方法

## チャレンジデー

### 対象

笹川スポーツ財団の  
チャレンジデーの  
参加自治体

### 日時

毎年の5月の最終水曜日  
午前0時から午後9時

### 対戦

人口規模が、  
ほぼ同じ自治体  
間で参加率を競う

### 規則

在住していなくても  
通勤・通学者、  
旅行者でも良い



CHALLENGE DAY



# チャレンジデーイベント協力団体

(順不同)

- ・碧南市グラウンド・ゴルフ協会
- ・碧南レクポン協議会
- ・碧南市インディアカ協会
- ・碧南レクリエーション指導者協議会
- ・NPO法人アイデアC体創協会
- ・碧南市ゲートボール協会
- ・ソフトテニス碧クラブ
- ・碧南市シニア野球リーグ実行委員会
- ・碧南スポーツ吹矢愛好会
- ・NPO法人へきなん総合型スポーツクラブ
- ・公益財団法人碧南市シルバー人材センター
- ・一般社団法人碧南青年会議所
- ・チーム愛エクササイズ
- ・へきなんキッズビクス3B MINI
- ・碧南ジュニアソフトテニスクラブ
- ・碧南空手道会
- ・碧南市柔道会
- ・碧南市空手スポーツ少年団
- ・碧南市空手協会
- ・碧南市卓球協会
- ・碧南市バレーボール協会
- ・碧南市陸上競技協会
- ・碧南市バドミントン協会
- ・秀栄会
- ・碧南市軟式野球連盟
- ・碧会
- ・自主ウォーキンググループ
- ・西端剣道クラブ
- ・碧南市スポーツ推進委員会



☆ご協力ありがとうございます☆

アリーナ	
臨海体育館	第1体育館
	第2体育館
ドーム	
臨海公園	エンタランス生
	芝生
	グラウンド
碧南緑地ビーチ	
南部市民プラザ	
大浜公民館・ホ	
柳尾公民館・ホ	
中部公民館・ホ	
日連公民館・ホ	
霞浦会館・ホ	
鶴ヶ岡区民館	
農業者ユニバー	
勤労者体育セ	
へきなん福祉セ	
まらかどホール	
油ヶ瀬遊園地	
新川中学校・武	
西端中学校・武	
保健センター	
※1「ビーチ」	
に内容・場所を	





# 混合研究デザイン

## 量的研究

2016年と2017年に  
参加した115自治体



質問紙調査

+

## 質的研究

特徴的な6自治体



インタビュー調査

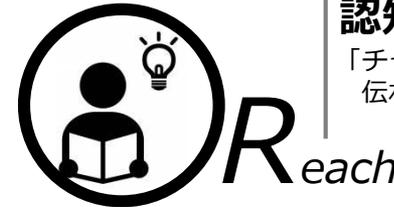
# 本研究で採用した評価モデル

## 自治体の事業の展開手順に即した評価モデル：PAIREM



### 計画を立てる

「目標参加率と目標達成のための具体的な計画はありますか？」



### 認知度 (%) を確認する

「チャレンジデー実施は住民の何%に伝わっていますか？」



### 協力体制をつくる

「スポーツ関係者だけでなくまち全体で取り組む体制は出来ていますか？」



### 当日参加率 (%) を確認する

「同じ人口規模で参加率の高い自治体はどんな取り組みをしていますか？」



### 周知・運営する

「広報媒体・グッズなどを効果的に活用していますか？」「幅広い層の参加を促す多様なプログラム構成ですか？」



### 継続につなげる

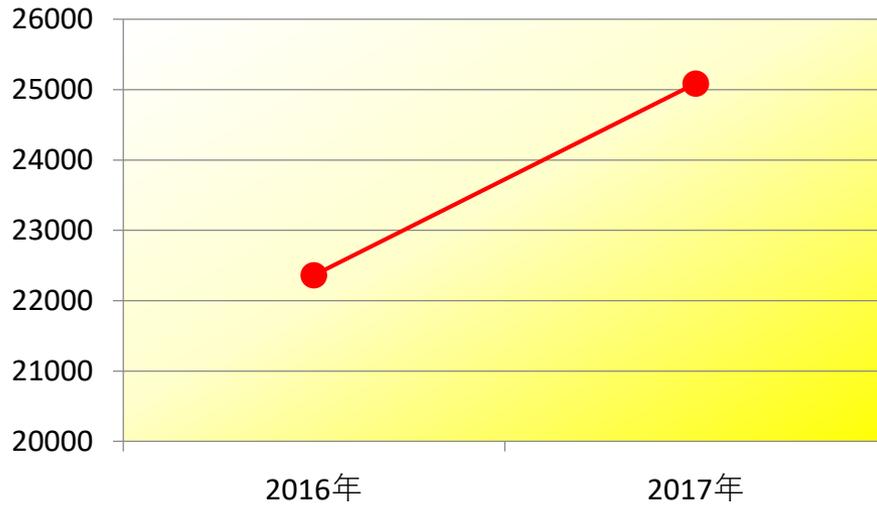
「住民のスポーツ実施率・運動習慣者の割合を把握していますか？」

\* PAIREM (重松ら, 2016)

イベントに向けて自治体が特に能動的に取り組める（意図的に操作できる）のは、採用（A）と実施（I）であることから、本研究ではこれら2局面のデータを解析することとした。

# 結果

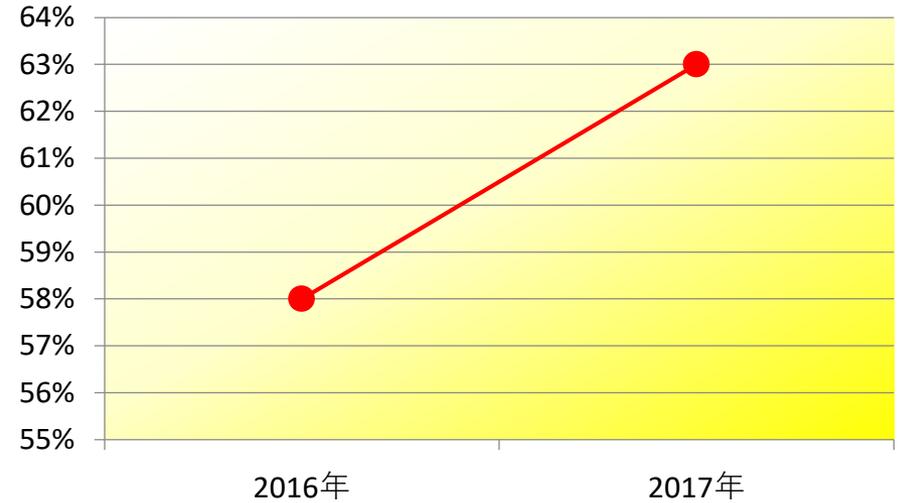
## 参加者数のグラフ



- 2016年 : 22,361 ± 25,202名
- 2017年 : 25,086 ± 29,268人

▼  
**有意に増加した**

## 参加率のグラフ



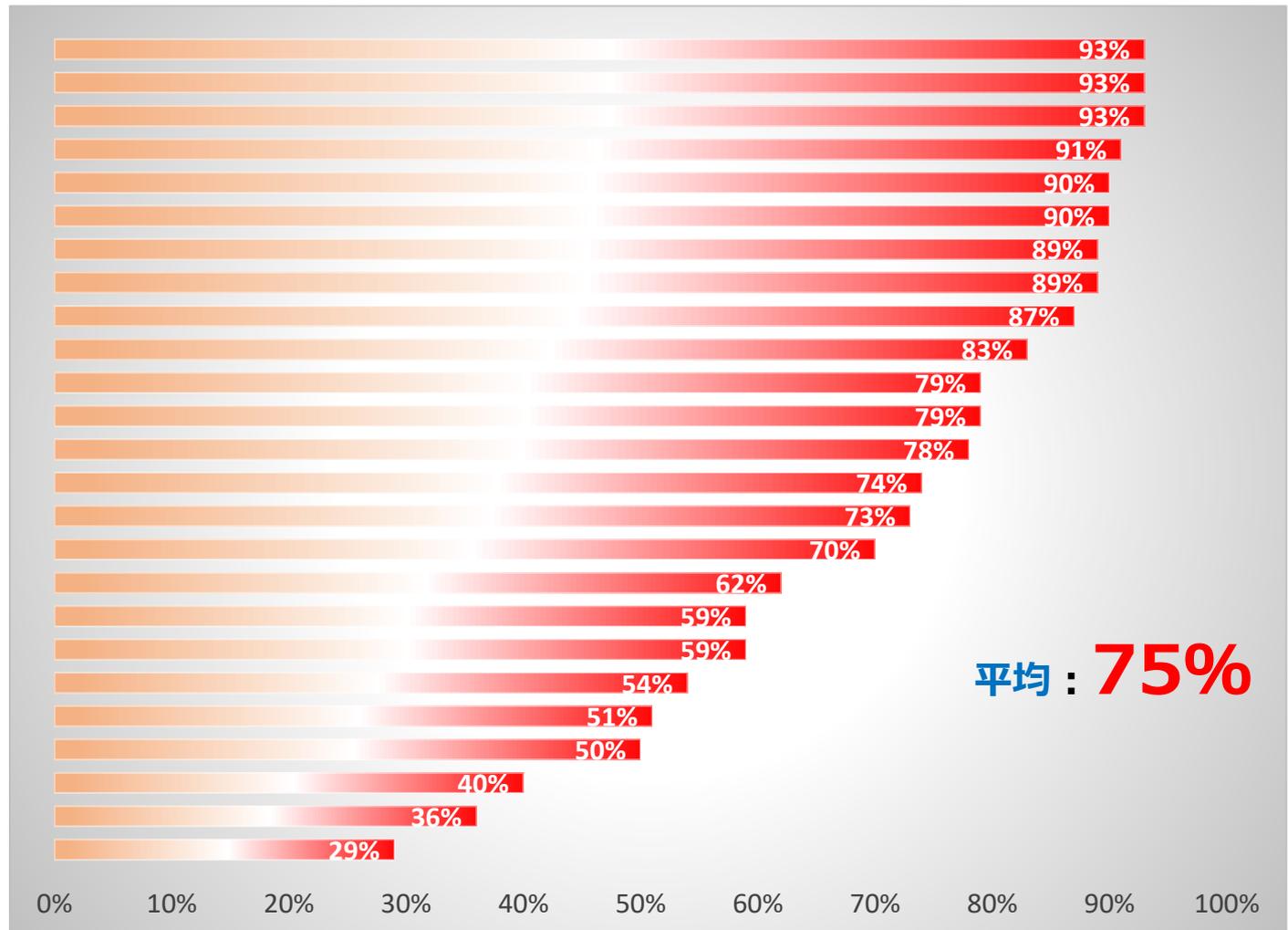
- 2016年 : 58% ± 18%
- 2017年 : 63% ± 16%

▼  
**有意に増加した**

# 結果：質問紙調査

採用（Adoption）局面  
どの組織が**周知**してくれたか？（2016年）

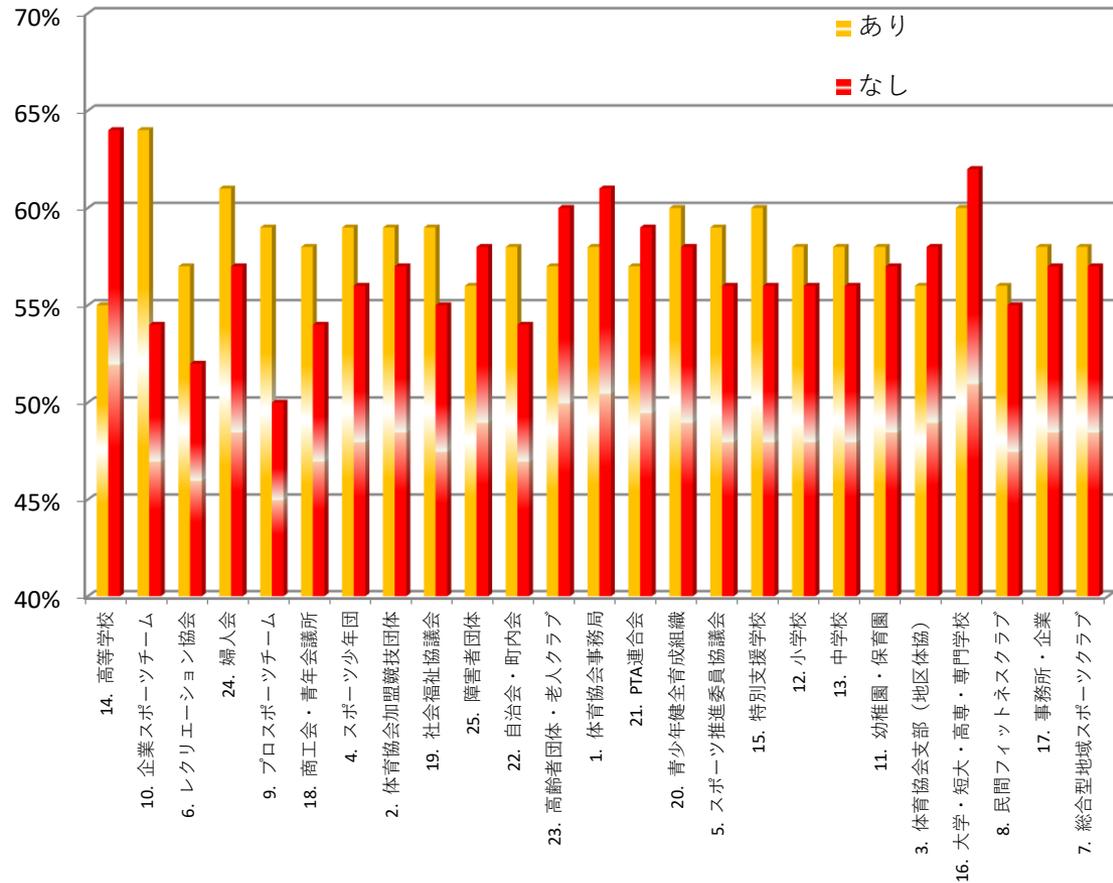
組織
小学校
中学校
事務所・企業
自治会・町内会
幼稚園・保育園
高等学校
体育協会事務局
大学・短大・高専・専門学校
商工会・青年会議所
社会福祉協議会
特別支援学校
総合型地域スポーツクラブ
スポーツ推進委員協議会
民間フィットネスクラブ
体育協会支部（地区体協）
高齢者団体・老人クラブ
レクリエーション協会
スポーツ少年団
体育協会加盟競技団体
障害者団体
婦人会
プロスポーツチーム
企業スポーツチーム
青少年健全育成組織
PTA連合会



# 結果：質問紙調査

採用 (Adoption) 局面  
**周知**の有無で参加率が異なるか？ (2016年)

組織	あり	なし
高等学校	55%	64%
企業スポーツチーム	64%	54%
レクリエーション協会	57%	52%
婦人会	61%	57%
プロスポーツチーム	59%	50%
商工会・青年会議所	58%	54%
スポーツ少年団	59%	56%
体育協会加盟競技団体	59%	57%
社会福祉協議会	59%	55%
障害者団体	56%	58%
自治会・町内会	58%	54%
高齢者団体・老人クラブ	57%	60%
体育協会事務局	58%	61%
PTA連合会	57%	59%
青少年健全育成組織	60%	58%
スポーツ推進委員協議会	59%	56%
特別支援学校	60%	56%
小学校	58%	56%
中学校	58%	56%
幼稚園・保育園	58%	57%
体育協会支部 (地区体協)	56%	58%
大学・短大・高専・専門学校	60%	62%
民間フィットネスクラブ	56%	55%
事務所・企業	58%	57%
総合型地域スポーツクラブ	58%	57%



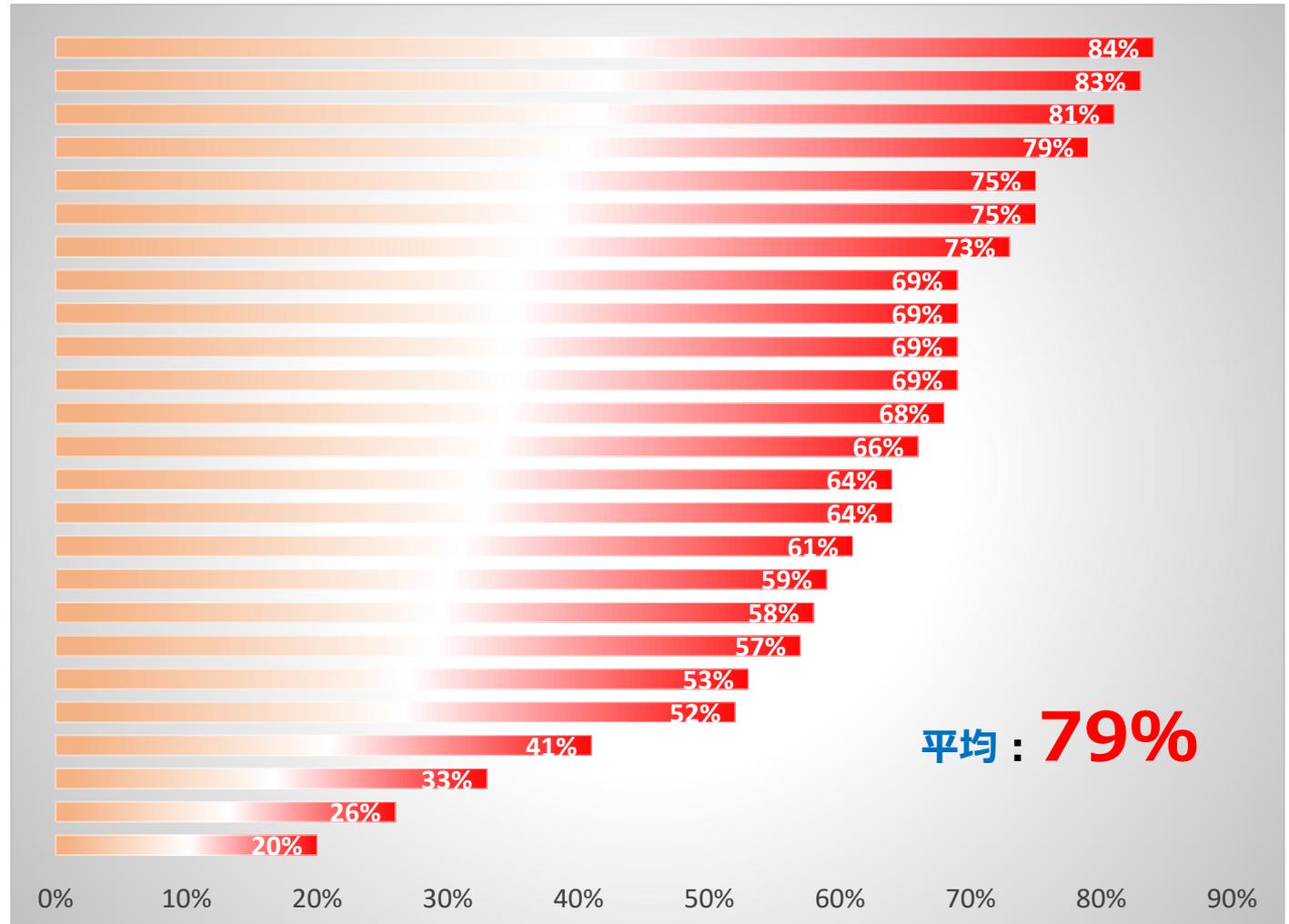
有意差なし

平均 : あり : **58%** なし : **57%** p : **0.29**

# 結果：質問紙調査

実施（Implementation）局面  
どの組織が運営してくれたか？（2016年）

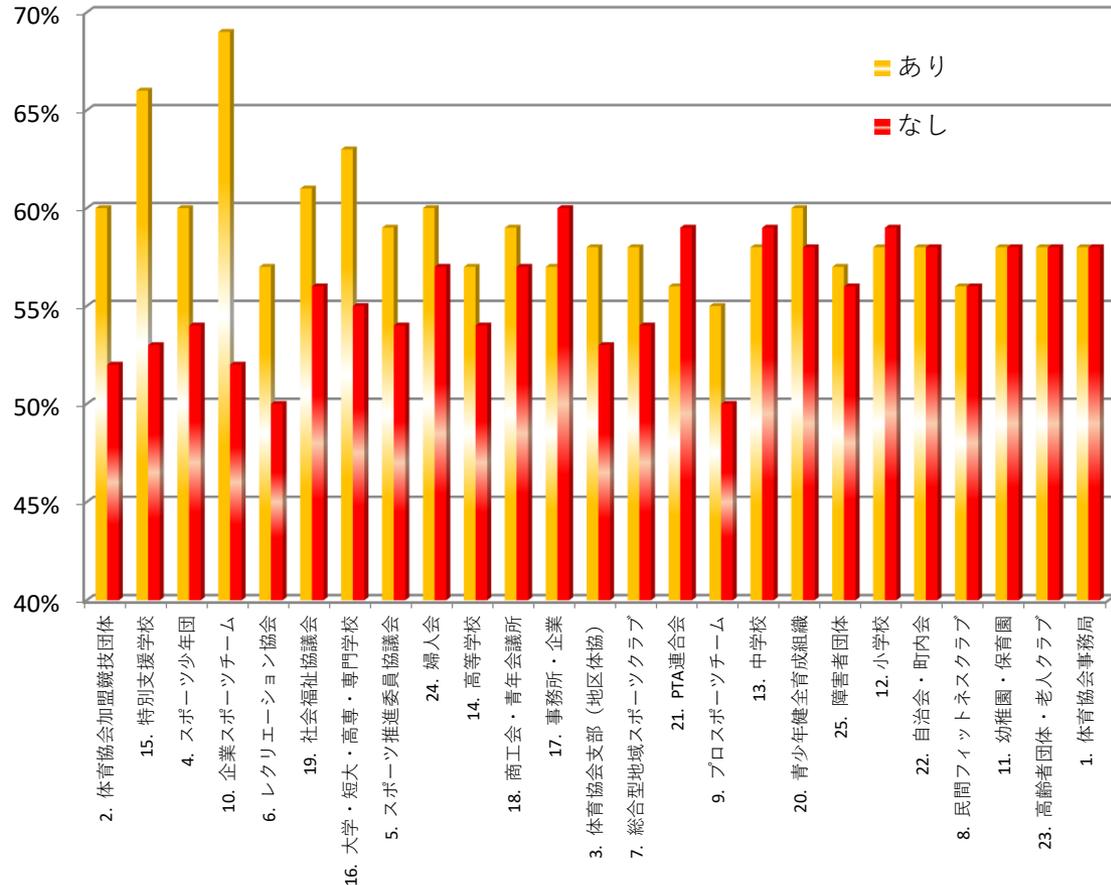
組織
スポーツ推進委員協議会
総合型地域スポーツクラブ
プロスポーツチーム
体育協会加盟競技団体
高齢者団体・老人クラブ
自治会・町内会
体育協会支部（地区体協）
レクリエーション協会
幼稚園・保育園
小学校
中学校
体育協会事務局
事務所・企業
大学・短大・高専・専門学校
民間フィットネスクラブ
高等学校
婦人会
障害者団体
スポーツ少年団
社会福祉協議会
商工会・青年会議所
特別支援学校
企業スポーツチーム
PTA連合会
青少年健全育成組織



# 結果：質問紙調査

実施 (Implementation) 局面  
**運営**の有無で参加率が異なるか？ (2016年)

組織	あり	なし
* † 体育協会加盟競技団体	60%	52%
† 特別支援学校	66%	53%
† スポーツ少年団	60%	54%
企業スポーツチーム	69%	52%
† レクリエーション協会	57%	50%
社会福祉協議会	61%	56%
大学・短大・高専・専門学校	63%	55%
スポーツ推進委員協議会	59%	54%
婦人会	60%	57%
高等学校	57%	54%
商工会・青年会議所	59%	57%
事務所・企業	57%	60%
体育協会支部 (地区体協)	58%	53%
総合型地域スポーツクラブ	58%	54%
PTA連合会	56%	59%
プロスポーツチーム	55%	50%
中学校	58%	59%
青少年健全育成組織	60%	58%
障害者団体	57%	56%
小学校	58%	59%
自治会・町内会	58%	58%
民間フィットネスクラブ	56%	56%
幼稚園・保育園	58%	58%
高齢者団体・老人クラブ	58%	58%
体育協会事務局	58%	58%

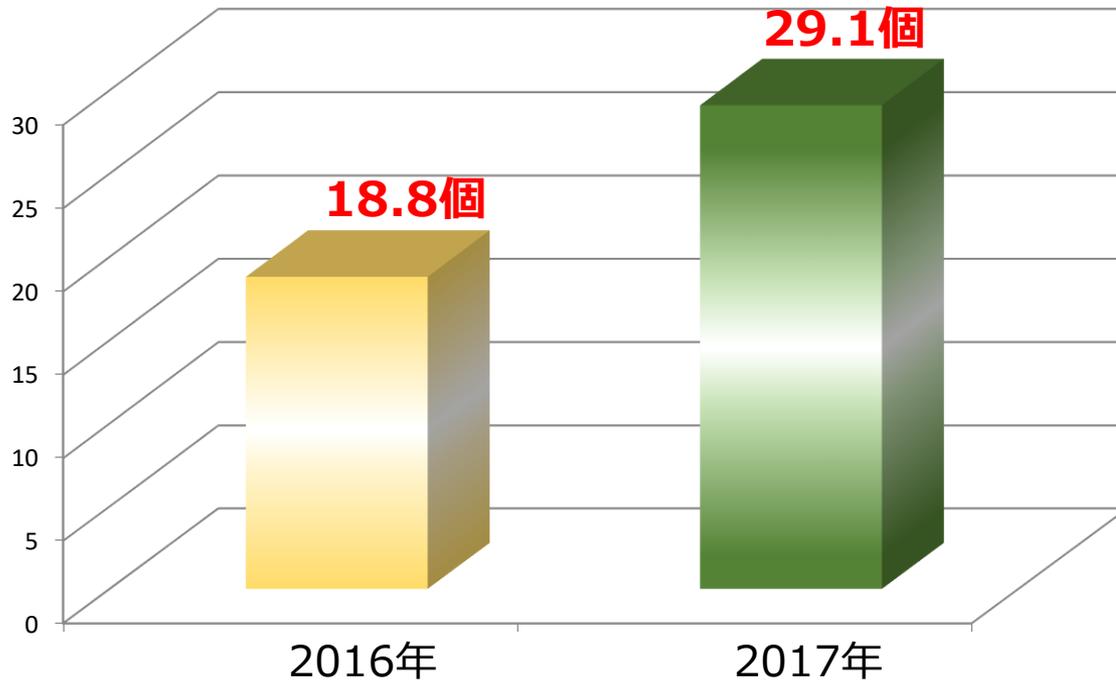


有意差あり \* 2016年、† 2017年

平均 : あり : **59%** なし : **57%** p : **0.01**

# 結果：質問紙調査

実施 (Implementation) 局面  
プログラム数と参加率



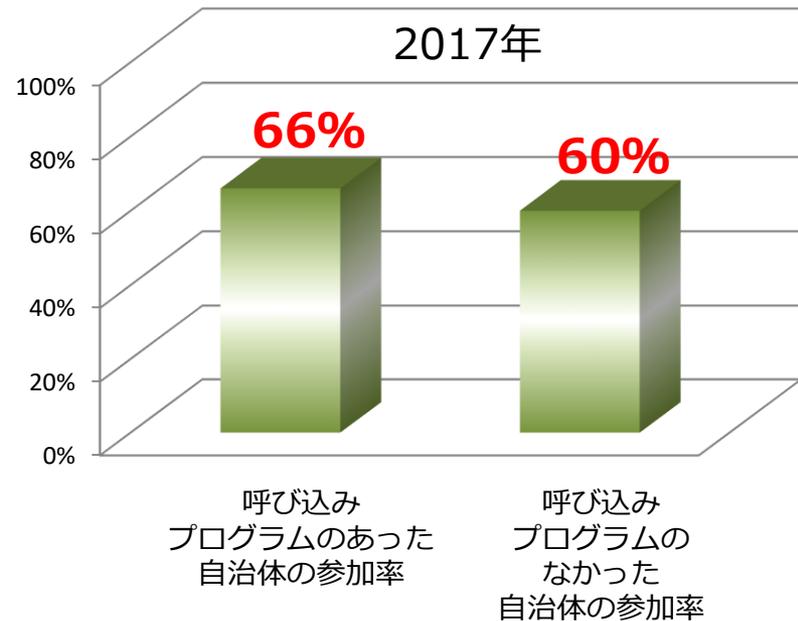
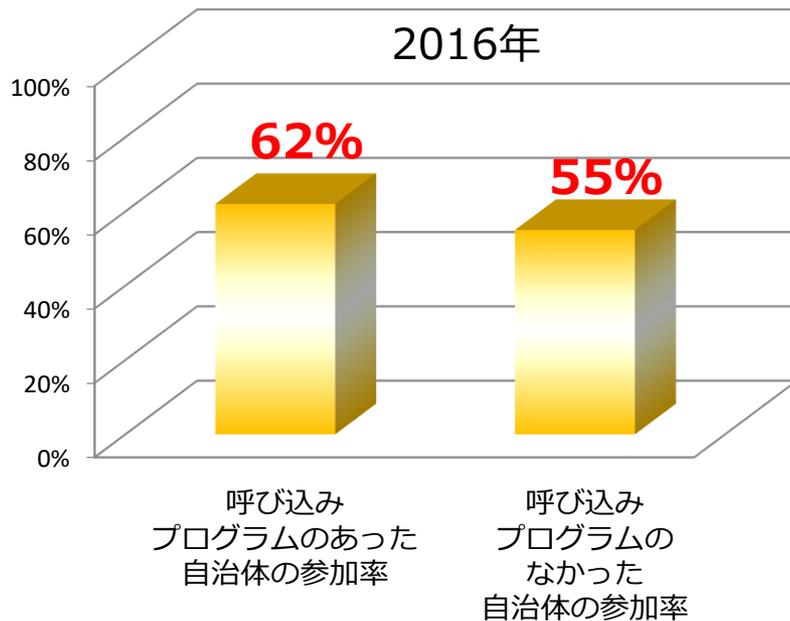
▼  
有意な変化ではなかった

参加率との関連性はみられなかった  
(2016年  $r = -.11$ 、2017年  $r = -.03$ , N.S.)

# 結果：質問紙調査

## 実施（Implementation）局面

在住・在勤在学以外の参加者を多数呼び込むことを目的に  
実施しているプログラム



有意に高かった

### 参加率と呼び込みプログラム数との関連性

2016年  $r = -.21$ 、2017年で  $r = -.19$  で有意であったが、  
いずれも逆相関であり、プログラム数を増やす意義は認められなかった。

# インタビュー調査

## 秋田県秋田市 (15,475人増)

人口25万人以上というもっとも人口の多いカテゴリの中で参加者数をもっとも増加した

## 愛知県飛島村 (1,025人増)

人口5千人未満というもっとも人口の少ないカテゴリの中で参加者数をもっとも増加した

## 島根県雲南市 (2017年)

研究者の所属する自治体（長野県東御市）と対戦した

## 北海道名寄市 (24回)

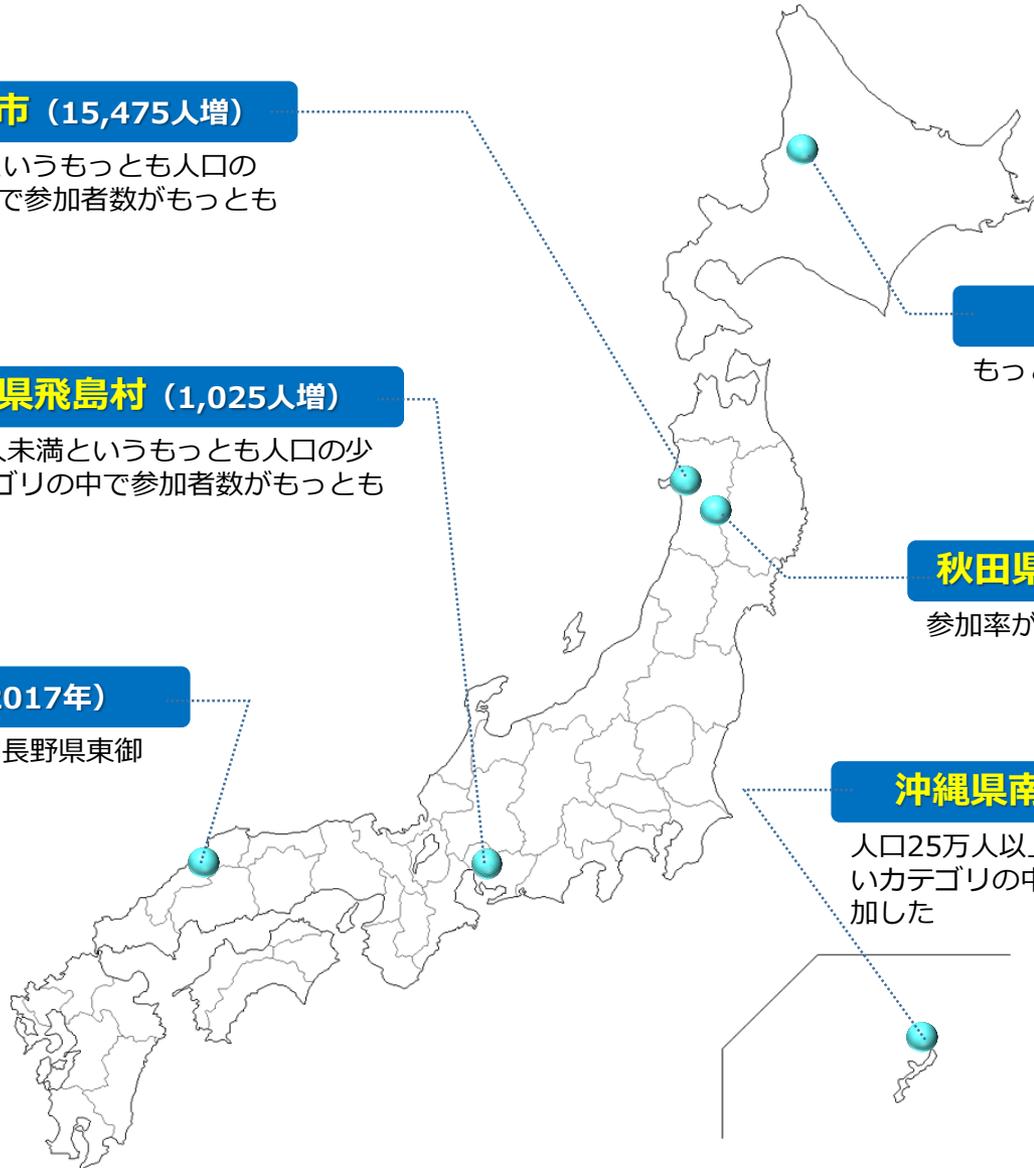
もっとも長く参加している

## 秋田県大仙市 (28.3ポイント増)

参加率をもっとも増加した

## 沖縄県南城市 (6,965人増)

人口25万人以上というもっとも人口の多いカテゴリの中で参加者数をもっとも増加した



# 結果：インタビュー調査

発言は4つに分類された



## 1 周知・運営協力を広く求める方法 ：採用（A）

例)  
さまざまな組織等への周知を依頼するが、特に子供や高齢者に関わる組織等に依頼する。

## 2 参加率を高めるための具体的な取り組み ：実施（I）

例)  
綱引き大会での参加賞、ロープジャンプで好成績を収めた学校の表彰といったインセンティブを付与する。

## 3 波及効果

例)  
地域振興も狙えている。

## 4 実施にあたっての配慮

例)  
農繁期にあたるので理解を得られるように工夫している。

# まとめ

スポーツイベントへの参加率を高める具体的な方法を見出すことができた



## 協力体制をつくる

「スポーツ関係者だけでなくまち全体で取り組む体制は出来ていますか？」

**A**doption



## 周知・運営する

「広報媒体・グッズなどを効果的に活用していますか？」「幅広い層の参加を促す多様なプログラム構成ですか？」

**I**mplementation

**運営**

体育協会加盟競技団体  
特別支援学校  
スポーツ少年団  
レクリエーション協会

**数量**

プログラムの厳選

**特に**

子供や高齢者に関わる組織

**呼込**

呼び込みプログラムの開催

**工夫**

農繁期にあたるので理解を得られるようにする

**工夫**

参加賞、表彰といったインセンティブ

将来的には・・・

- ・ チャレンジデー以外のスポーツイベントで活用される。
- ・ チャレンジデーをきっかけにスポーツ習慣を有する住民が増える。

# 謝辞

本研究をご支援くださった笹川スポーツ財団に厚く御礼申し上げます。



## 自治体スポーツイベントの 準備内容と参加率との関連

— 1年間に何を準備すれば参加率が向上するのか —

重松良祐（三重大学教育学部）



岡田真平（公益財団法人身体教育医学研究所）

